

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2010年1月調査結果-

2010年2月10日

調査要領

- 調査期間 2010年1月18日～22日
- 調査対象 200社
- 回答企業 119社
- 回収率 59.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を合致回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI値＝（増加・好転などの企業割合）－（減少・悪化などの企業割合）
業況・採算：（好転）－（悪化） / 売上：（増加）－（減少）

旭川市概況

※全産業の1月の状況を見ると業況DIは、前月より5.0ポイント回復の▲60.8。

平成7年4月調査開始以来178ヵ月連続マイナス2桁水準で推移している。

業種別では、製造業・小売業・サービス業で回復となった。

※向こう3ヵ月の先行き見通し業況DIは▲65.8と悪化しており、依然として厳しい状況である。

業種別でみると、建設業・製造業・卸売業で悪化しており、地域経済や足下の景気感は依然として厳しい状況となっている。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	先行き見通し 2～4月
業況	▲54.2	▲51.7	▲50.8	▲57.3	▲62.3	▲60.8	▲65.8
売上	▲47.5	▲43.3	▲49.2	▲58.1	▲49.6	▲47.9	▲61.2
採算	▲43.3	▲40.8	▲40.5	▲46.8	▲51.6	▲46.3	▲58.3
仕入単価	▲10.8	▲15.8	▲12.7	▲10.5	▲15.6	▲13.3	▲20.0
従業員	▲12.6	▲9.2	▲8.1	▲14.6	▲13.9	▲17.5	▲21.7
資金繰り	▲25.8	▲21.7	▲25.8	▲24.2	▲27.0	▲25.0	▲40.3

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	先行き見通し 2～4月
建設	▲55.6	▲46.2	▲40.0	▲59.3	▲56.0	▲64.0	▲76.0
製造	▲47.6	▲71.4	▲56.0	▲52.2	▲54.2	▲50.0	▲58.3
卸売	▲57.1	▲35.7	▲55.2	▲59.3	▲55.6	▲59.3	▲66.7
小売	▲59.1	▲52.2	▲47.8	▲65.2	▲68.2	▲66.7	▲66.7
サービス	▲50.0	▲59.1	▲54.5	▲50.0	▲79.2	▲65.2	▲60.9

今月のトピックス（業界の声）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景気の厳しさによる建て主の慎重な決断と価格の比較から、契約の長期化と利幅の減少となっている。仕事の絶対量が不足しており、今年も労多く功なしの経営が予想される。 ・ これまで色々仕掛けてきたことが実を結ぶはずだが、経済の変化や政治の不安定でこの先どうなるか分からない。 ・ 民主党政権となり公共工事は大幅に減少。今月および来月以降、業況はさらに悪化する見込みである。 ・ 昨年からの継続がピークになりつつある。内部の仕事が多忙。
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景気の先行きに不安材料が多く、法人・個人需要ともに低迷している。 ・ 受注量は増加しているが、安値受注と思われる。 ・ 今年は特に正月休みが多く稼働日数が少ない。それに付随して売上も少なく、先行きも厳しい状況である。 ・ 昨年に引き続き状況は良くない。2～3月は多少需要期に入るので少し期待はしている。 ・ 仕事量は薄く価格だけの競争に飲み込まれないよう、顧客に提案営業をすすめていく。
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1月は1年の中で一番売上の少ない月、今年も例外ではなく厳しい状況が続いている。道北地方・道東地方が特に厳しいが、道央圏は札幌を中心に厳しい中でも売上の的には好調。益々道内でも地域間格差が広がりつつある。 ・ 年末商戦については何とか前年並みとなったが、1～2月は閉散期だけに、より厳しさはつもの。 ・ 売上減が6カ月続いている。このままの状態が続けば人員削減もありうる。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立ち上がりは初売りセールということもあり、集客も多く例年並みの売上であったが、2週目の3連休以降極端に集客が減り厳しい状況が続いている。売上にも当然影響してくる。衣料は大変厳しい。 ・ 建設・運輸への影響が必至となり、また、エコカーの新車販売により従来の中古車市場は転換により余剰感が出ている。石油課税の曲折は一層市場を混乱させることになる。デフレ下の販売業者は値上げにより苦境に追い込まれる。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高速道路の通行止めが頻発するなど、走行環境の悪化により前年比の売上は減少の見込み。 ・ 正月の日並びの影響もあり連泊客減、景気低迷・悪天候も重なり營收ダウン、中旬以降は持ち直しも収益は前年並み。 ・ 年末年始の売上が前年対比75%で終了。観光需要が低下しており、背景には暦の問題があったと考える。中旬より稼働率は前年以上となっているが、販売価格の低下に伴い売上減が確実。 ・ 未だ下げ止まらぬ状況であるが、技術と信用だけは維持している。 ・ 飲食店は相変わらず低調。客数も減っているが、主食以外のデザート類までオーダーしてくれる客が減った。

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	仕入単価 DI16.0 ポイント、資金 DI8.0 ポイント回復。売上 DI20.0 ポイント、採算 DI8.0 ポイント従業員 DI8.0 ポイント悪化、総じて業況 DI も 8.0 ポイント悪化となった。業種別では、設備その他横ばい。総合工事 11 ポイント、建築業 11 ポイント悪化となった。経済の変化や政治の不安定でこの先どうなるかわからないとの声も寄せられている。
製造業	仕入単価 DI4.2 ポイント、従業員 DI12.5 ポイント悪化。資金 DI 横ばい。売上 DI12.5 ポイント、採算 DI25.0 ポイント回復、総じて業況 DI も 4.2 ポイント回復となった。業種別では、印刷出版 33 ポイント悪化。食料品、家具木材横ばい。金属窯業他 33 ポイント回復となった。景気の先行きに不安材料が多く、法人・個人需要ともに低迷しているとの声も寄せられている。
卸売業	売上 DI11.1 ポイント回復。採算 DI 横ばい。仕入単価 DI22.2 ポイント、従業員 DI3.7 ポイント、資金 DI11.1 ポイント悪化、総じて業況 DI も 3.7 ポイント悪化となった。業種別では、繊維 33 ポイント、その他 13 ポイント回復。機械鋼材横ばい。食料品 33 ポイント悪化となった。売上減がこのままの状態が続けば、人員削減もありうるとの声も寄せられている。
小売業	仕入単価 DI1.1 ポイント、資金 DI1.7 ポイント悪化。売上 DI13.6 ポイント、採算 DI22.7 ポイント、従業員 DI4.1 ポイント回復、総じて業況 DI も 1.5 ポイント回復となった。業種別では、自動車 38 ポイント悪化。衣料品横ばい。食料品 29 ポイント、家電時計他 17 ポイント回復となった。連休以降極端に集客が減り、厳しい状況が続いているとの声も寄せられている。
サービス業	売上 DI11.2 ポイント、採算 DI10.9 ポイント悪化。仕入単価 DI24.1 ポイント、従業員 DI3.8 ポイント、資金 DI15.6 ポイント回復、総じて業況 DI も 14.0 ポイント回復となった。業種別では、クリーニング、整備業横ばい。ホテル 33 ポイント、その他 5 ポイント、飲食 20 ポイント、運送 17 ポイント回復となった。未だ下げ止まらぬ状況であるが、技術と信用だけは維持しているとの声も寄せられている。